

立ち上がると土踏まずがぺたっとなる

(扁平足障害)

足には縦アーチ(内側と外側)と横アーチがあり、歩行時の衝撃を吸収したり、推進力を伝えたりするなどの役割があります(図 1)。

足の縦アーチ構造が低下し、土踏まずが消失した状態を扁平足と言います。実際にはアーチが低下するだけでなく、後足部の外反(踵が外に傾く)、前足部の外転を伴います(図 2)。

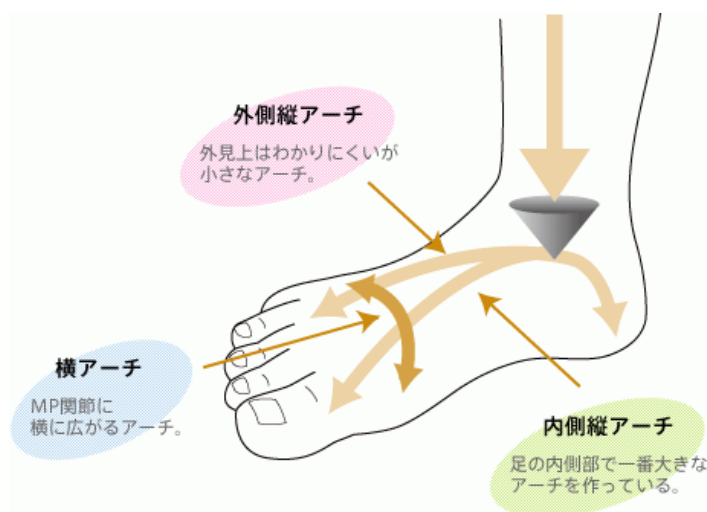


図 1



図 2

足のアーチが低下すると、立位保持が不安定となったり、推進力が十分伝えられず歩行能力が低下したり、土踏まずのところの骨が床に突出して痛みの原因になったりします。

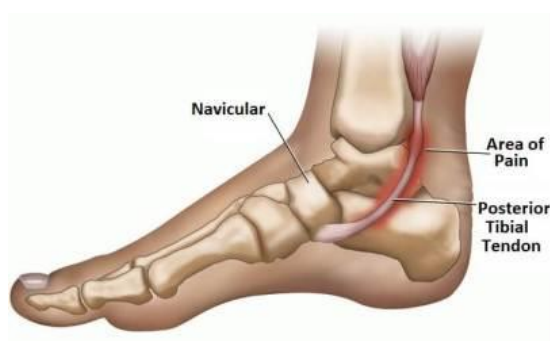


図 3

一般に、扁平足は小児期、思春期、成人期に分けられ、それぞれ扁平足を引き起こす病因や病態は異なります。成人の場合、足のアーチを動的に支えている後脛骨筋腱が変性や断裂を生じることで機能不全を生じて扁平足を起こしていることが多いです。その場合、足の内くるぶしの後方から下にかけて痛みが生じます。徐々に靱帯の機能も破綻し扁平足変形が進行していきます(図 3)。

まずは足のアーチを支えてくれる筋力訓練、足底挿板などによる治療を行います。それでも痛みや立位・歩行時の不安定感が続くような場合に手術を行っています(図 4)。



図 4

術後の固定期間が長く、治療期間は比較的長期に及びますが、扁平足変形だけでなく歩行能力が改善し満足される方が多いです。扁平足でお困りの方はご相談下さい。

文責 第3整形外科部長 城戸 聡